

氏名	高崎 博司	部署	理学療法学科	職名	准教授
研究分野	運動器理学療法				
学位	博士（理学療法学）				
学歴	2004年札幌医科大学理学療法学科、2006年札幌医科大学大学院修士課程保健医療学研究科徒手療法学				
経歴	2013年クイーンズランド大学博士研究員、14年埼玉県立大学理学療法学科講師、17年埼玉県立大学理学療法学科准教授、24年東京工科大学客員教授				
所属学会（役職）	日本理学療法士協会、日本徒手理学療法学会（理事）、埼玉アスレチックリハビリテーション研究会（理事）、専門リハビリテーション研究会				

【2025年度実績】

1. 研究業績							
(1) 著作							
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数		著者、編者名	発行等年月
1	該当なし						
(2) 論文							
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	The Katakori disability index has cross-cultural validity for disability due to stiff neck/shoulder across Japan, the US, and Singapore.	単著	あり	○	Scientific Reports. 15: 12087.	<u>Takasaki H.</u>	2025.4
2	Exploration of combined factors related to quality of life after knee replacement surgery	共著	あり	○	PLoS One. 20(5): e0323007.	Santoh K, Shigetoh H, Yamano H, Torizawa K, <u>Takasaki H</u> , Uritani D.	2025.5
(3) 学会発表							
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市		発表者（発表者は○印）		発表等年月
1	Evaluation of the Structural and Construct Validity of the Pain Understanding and Confidence Questionnaire for Assessing the Pain Management Competence of Physiotherapists	単独	The 14th Congress of the European Pain Federation EFIC、リヨン		○ <u>Takasaki H</u>		2025.4
2	Verification of intervals between pretest stimuli that do not affect exercise-induced hypoalgesia	共同	The 14th Congress of the European Pain Federation EFIC、リヨン		○Chiba H, <u>Takasaki H</u>		2025.4
3	Cross-cultural validity of the Katakori Disability Index among Japan, Singapore, and the United States of America.	単独	World Physiotherapy Congress 2025		○ <u>Takasaki H</u>		2025.5
4	Responsiveness of the P4, Patient Specific Functional Scale 2.0, Satisfaction and Recovery Index, and SF-12 in Patients With Musculoskeletal Disorders	共同	World Physiotherapy Congress 2025		○Chiba H, <u>Takasaki H</u>		2025.5
5	理学療法士が運動器疾患患者に対して理学療法を行う際に意識し、重要視していることは何か？インタビュー調査による内容分析	共同	第19回埼玉アスレチックリハビリテーション研究会学術大会		○羽賀大貴、 <u>高崎博司</u>		2025.9

6	Exercise Attitude Scale 日本語版の開発	共同	第19回埼玉アスレチックリハビリテーション研究会学術大会	○長浦香純、 <u>高崎博司</u>	2025.9
7	痛覚変調性疼痛またはメカニカルペインを有する患者を対象とした Pain Stage of Change Questionnaire for patients の表面的妥当性	共同	第19回埼玉アスレチックリハビリテーション研究会学術大会	○美濃和巧真、 <u>高崎博司</u>	2025.9
8	日本語版 Athlete's Subjective Performance Scale の信頼性検証	共同	第19回埼玉アスレチックリハビリテーション研究会学術大会	○三村渉、 <u>高崎博司</u>	2025.9
9	腰痛再発の状態を把握するアンケートである日本語版Visual Trajectories Questionnaire for Painの作成	共同	JAPAN PAIN WEEK 2025	○羽賀大貴、近藤湧、 <u>高崎博司</u>	2025.12
10	日本語版STarT MSK toolの信頼性及び妥当性の検証	共同	JAPAN PAIN WEEK 2025	○千葉弘樹、 <u>高崎博司</u>	2025.12
11	日本語版Knowledge of Exercise during Pregnancy Scaleの開発とテスト再テスト信頼性の検証	共同	第11回 日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法学会 学術大会	○長浦香純、 <u>高崎博司</u>	2025.12
(4) その他					
	名称	単・共	発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	該当なし				
2. 競争的資金等の研究					
	競争的資金等の名称		研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	科研費・基盤C		労働損失予防戦略の革命に向けた頸部有症在宅勤務者に対するマッケンジー法の遠隔応用	研究代表者	2023.4～2027.3
2	埼玉県立大学・奨励研究		日本人運動器疾患患者における予後予測ツールの予測精度の解明	研究代表者	2025.4～2026.1
3. 教育業績					
(1) 講義					
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	理学療法研究法		2.5	研究倫理申請書の書き方を指導した	
2	運動器障害治療学特論（大学院）	○	15	運動器理学療法マネージメントに関する最新知見を紹介した	
3	理学療法症候障害論①（大学院）		1	最新の運動器理学療法マネージメントについて概説した	
4	IPWシステム開発論2（大学院）		2	臨床診療ガイドラインと質問紙の作成方法を指導した	
5	リハビリテーション教育学Ⅰ（大学院）		1	海外での教育例を紹介した	
(2) 演習					
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	臨床推論演習	○	8	クリニカルリーズニングについて講義・演習を行った	
2	徒手理学療法学	○	8	徒手療法テクニックの演習を行った	
3	臨床推論実習	○	30	Evidence-Based Practiceとクリニカルリーズニングについて講義・演習を行った	
4	理学療法応用技術学F（特殊テクニック）	○	8	Pain neuroscience educationや特殊なテーピング、運動療法、徒手技術の指導をした	

5	理学療法セミナー（OSCE1）		8	OSCEの試験とフィードバックを行った	
6	理学療法セミナー（OSCE2）		8	OSCEの試験とフィードバックを行った	
7	理学療法症候障害演習（大学院）		1	最新の疼痛マネジメント戦略について指導した	
（3）実習					
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	IPW実習		2025.4～2025.10	実習のファシリテーターを行った	
2	臨床教育実習I		2025.2～2026.3	学生評価と実習後の振り返りを行った	
3	臨床教育実習II		2025.9～2025.10	実習地訪問、学生評価、実習後の振り返りを行った	
4	臨床教育実習III		2025.4～2025.6	実習地訪問、学生評価、実習後の振り返りを行った	
5	臨床教育実習IV		2025.7～2025.8	実習地訪問、学生評価、実習後の振り返りを行った	
（4）論文指導					
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数		
1	卒業論文	2025.4～2026.3	主指導	4名	副指導 名
2	修士論文	2025.4～2026.3	主指導（指導教員）	3名	副指導（指導補助教員） 名
3	博士論文	2025.4～2026.3	主指導（指導教員）	1名	副指導（指導補助教員） 名
（5）その他					
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
1	東京工科大学 客員教授	2024.4～現在	ヒューマンムーブメントセンターにおける研究のアドバイスをした		
2	第19回埼玉アスレチックリハビリテーション研究会学術大会 大会長	2025.9	第19回埼玉アスレチックリハビリテーション研究会学術大会を企画運営した		
3	東京工科大学 非常勤講師	2025.10	マッケンジー法の概要を解説した		
4．社会貢献活動					
（1）講演会、研修会、公開講座等の講師					
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ		開催年月
1	World Physiotherapy Congress 2025	World Physiotherapy Congress 2025	Biopsychosocial and beyond		2025.5
2	第30回日本徒手理学療法学会学術大会	日本徒手理学療法学会	第30回日本徒手理学療法学会学術大会 プレワークショップ		2026.3
3	第30回日本徒手理学療法学会学術大会	日本徒手理学療法学会	伸展型腰痛に対する徒手理学療法		2026.3
（2）国、自治体、学術団体等における委員等					
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称		任期	
1	埼玉県理学療法士会	国際スポーツ競技対策委員		2016.10～現在	
2	日本徒手理学療法学会	理事		2017.4～現在	
3	埼玉アスレチックリハビリテーション研究会	理事		2017.4～現在	
4	日本徒手理学療法学会	徒手理学療法雑誌編集委員		2018.4～現在	
5	専門リハビリテーション研究会	EBP研究推進部 部長		2020.4～現在	
6	第13回日本運動器理学療法学術大会	企画局委員		2024.4～現在	
（3）ジャーナリズムでの発言					
	メディア等の名称	内容			年月
1	該当なし				

(４) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	地域貢献活動	埼玉県理学療法士会 国際スポーツ競技対策委員会 (旧 オリンピックパラリンピック対策委員会)	国際大会のメディカルサービスを実施できる理学療法士の養成育成	2016.4～現在
2	国際協力事業	Musculoskeletal Science and Practice	論文の査読	2019.4～現在
3	国際協力事業	BMC Musculoskeletal Disorders	論文の査読	2023.4～現在
4	国際協力事業	PlosOne	論文の査読	2023.4～現在
5	国際協力事業	Brazilian Journal of Physical Therapy	論文の査読	2025.4～現在
6	国際協力事業	Journal of Physiotherapy	論文の査読	2025.4～現在
7	地域貢献活動	第103回全日本ローイング選手権大会	メディカルスタッフ	2025.5
8	地域貢献活動	埼玉県インターハイ予選大会	メディカルスタッフ	2025.6
9	地域貢献活動	第65回オックスフォード盾レガッタ	メディカルスタッフ	2025.9
5. 学内運営				
	項目	内容		期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	国際交流委員会		2020.4～現在
2	全学的委員会及びセンター業務等	学部入試委員会		2024.4～現在
3	学科等における委員会等	臨床実習指導者講習会の企画運営		2024.4～現在
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）				
	受賞名		主催	受賞年月
1	該当なし			
7. 特許の取得				
	特許名		特許番号	登録年月
1	該当なし			
8. 特記事項				
1	該当なし			